

20171119 「シナイ山での契約」

目標： 十戒を戒めとしてではなく、神様の私達への期待、生きるべき指針として意識する。

聖書箇所： 出エジプト記19章1節～20章17節 時間：10分

暗誦聖句： 「わたしはあなたの神、主であって、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した者である」 (出エジプト記20章2節)

道具： ホワイトボード、ペン

対象者： 中3×1 中1×1 小6×1 小5×3 小3×1 小2×1 小1×2 幼稚園児×2

留意点：

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	出エジプトしたモーセとイスラエルの人々はシナイ山につきました。神様はモーセだけを山に登らせ、二枚の板に文字を書き連ねて与えました。		柵で区切ったなどの状況説明は、極力最小限にする。意味は深いのだが、子どもたちの理解できる量を超えてしまう恐れがある。
課題探究	6分	板に書かれた戒めの名前を知っていますか。 十戒は、イスラエルに与えられた掟でした。彼らは、この掟を大切にすあまり、掟が言っていないところまで、いろんな掟を作っていくことになりました。 しかし、元々掟とは、それを破ると命の危険があるから、神様が悲しむから設けられたものです。違反した場合の報いは、イエス様が十字架で受け取って下さいました。 ですから、私達は十戒を私達の生きるべき指針として受け取ることが出来るようになったのです。 十戒それぞれを見ていきましょう。 第一戒から第四戒まで見ていきましょう。 第五戒から第六戒まで見ていきましょう。	・十戒 ・知らない	彼らの予備知識をここで見る。もし知っているならば、思い出させて知識の定着を図る。知らないなら、解りやすくするようにさらなる配慮が必要となろう。 ユダヤ人の律法解釈について、どう間違っていたかを説明する。 掟の本来の役割の説明 自分と他者を結局困らせる事にも言及する。 イエス様の御業への言及 私達の律法解釈は、生きる指針である。主により救いを戴いた喜びを向けるべき方向である。 十戒それぞれを、短くコメントしながら読んでいく。対象が子どもたちなので、子どもたちが解るように配慮する。 例えば、偶像と言われても解らないので、ほんとの神様以外の神様と言い換えたり、姦淫を、結婚した人同士以外の人と、結婚したように生活することなどと解説する。 聖書の言葉の意味がわかる頃には、その意味するところもよくわかるはずである。それまでに御言自体にしっかり触れさせておきたい。
まとめ	2分	神様がこれを教えて下さったのは、私達が、この戒めを守らないで、あなたの生活が混乱してほしくないと思われたからです。 そのことが、最初の文章に表れています。 暗唱聖句		掟という印象ではなく、配慮されているとの印象が残るように努める。 暗唱聖句の導入